

京都市中京区 鶴谷 知雅子（71 歳）

先日「コーポロ」の戦争体験の記事を見つけて、生存していれば 100 歳の母が、生前自分の体験を手紙に書いておりましたことを思い出し、送らせていただきます。

新聞の戦争の記事を読み、私の学生時代の記憶を思い起こしました。そしてその当時の私の受けた体験を後世に伝えたいと思います。私も年を取り 84 歳の年齢になりあの頃が夢のようです。私の若い頃、20 代の受けた貴重な二度と体験できない事実を書き残しておきました。

戦争が始まってから女子挺身隊として動員され、大久保の飛行場で働きました。行ってみれば特攻機を作る作業場で、学生や女子挺身隊が集まり、工場長（兵隊）の指導で飛行機の胴体や部品をたくさん作るのです。材料は木でカンナ、のこぎりで歯を研ぎ削る方法でした。模型飛行機のように胴体を作り、翼を作るのです。アメリカは金属の B29 の飛行機です。でもその頃は日本には材料がないのです。模型飛行機を拡大したようなものです。枠を組み立て、その上に羽二重をかぶせ、銀色のペンキを塗って翼や胴体を作るのです。それで飛行機らしく型を作り、飛行してアメリカの飛行機と戦うのです。勝てるはずがありませんね。

私の同じ挺身隊員も機銃掃射されて 2 人死にました。私や友達は防空壕に入って助かったのです。私の青春時代の恐ろしい体験でした。戦争は二度としてはいけません。